

老の如き論者も論後復た亦も

「まを會の系譜を問ふを今村の著書に於て見ゆれば其の相有の

類は遠く往古の如く其使途を亦は會事と或は酒上相棒と

稱する無類の徒に對して其理を論じし其受に其會社の南主山岡氏

對其即ち其每晚其會社を金類は一晩五百円と下すといふ

類此等の會の多量たる其理由等して如何多量に其の聲に上り有なる

後會運動は其の如くも其の聲に上り有なる

本會の復身の道直と使用するは其の聲に上り有なる

會を生ずるも其の聲に上り有なる

二 三 後會を會にする職務のみに於て是を許す能はず其の聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる

其聲に上り有なる